

2024年度成人科テキスト

月刊「ぶどうの木」

3月号



そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。
自分が何をしているのか知らないのです。」
(ルカ23:34)

名前

目次

「靴屋のマルチン」	・・・ 1
解説・マタイによる福音書④	・・・ 3
第48課 七の七十倍	・・・ 5
ショートメッセージ：田中由記子姉 聖書日課：工藤征治兄	
第49課 この最後の者にも	・・・ 9
ショートメッセージ：郷健人兄 聖書日課：宇佐美典子姉	
第50課 幼子や乳飲み子たちの賛美	・・・ 13
ショートメッセージ：栗山義重兄 聖書日課：渡部和子姉	
第51課 仕える者	・・・ 17
ショートメッセージ：郷秀男兄 聖書日課：小沢敬一兄	
第52課 最も小さい者の一人に	・・・ 21
ショートメッセージ：郷秀男兄 聖書日課：小沢敬一兄	

表紙イラスト：友納聖子姉

おしらせ

- 成人科は毎週日曜日 10：15～50 地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。
- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック
- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）にお声がけください。
- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

主イエス神の愛

♩ = 70
G Em Am7 D7 Bm7 Em7 Am7 C6/D D

主イエスカみの - あいじゅうじかにいのち - すてた -

5 G Em Am7 D7 Bm7 Em7 Am7 C6/D

主イエスカみの - こひつじえい えんのゆるし - あたえる -

9 D G C/G D B B7/D# Em7 A7 C6/D D

い ま受けとります - あなたのあいと - あなたのゆるし - い

14 G C/G D B B7/D# Em7 A7 C6/D D

ま受けとります - えいえ - んのす く いと いや - - し - い

18 C D/C Bm7 Em7 3 Am7 G/D D7 G D/F# Em 3

のちに - あふれい の - る すべてを ささげます 主よ - - - すべて

22 C G/D D7 G

を ささげ ます - 主よ -

靴屋のマルチン

ある町にマルチン・アフデューイチという靴屋が住んでいた。彼の住む地下室の窓は往来に向いていたので、その窓からそこを通る人たちの靴がよく見えるのだった。マルチンはこの町のほとんどの人の靴を修理したので、彼らが履いている靴を見ただけで自分の仕事に満足した。彼は注文を受けると、上等の素材を使い、手間賃も安く、期限には必ず仕上げる誠実な職人だったのである。

彼の妻は以前亡くなり、カピトーシカという子どもが残された。マルチンは大切にこの子を育て、子どもは成長すると父の手助けをするようになったが、間もなくこの子は病気になり死んでしまった。マルチンは嘆き悲しみ、神様に文句を言い、教会に行くこともやめてしまった。

そんなある日、マルチンの所に長い間巡礼に出ていた老人が訪ねてきた。マルチンは彼に自分の悲しみを訴え、何の望みもない自分は早く死にたいと言ったところ、老人は自分たちには神様の仕事をあれこれ言う権利はないこと、そして神様に命を頂いたので、神様のために生きなくてはならないと諭す。そして、こう勧めた。

「本が読めるなら、(聖書の)福音書を読みなさい。そこには神様のために生きるにはどうすればいいのかが書かれている」

そこでマルチンは、聖書を買ってきて読み始めた。すると、読むごとに心が感謝で満ちあふれ、安らくなるのだった。彼の生活は変わった。この時からぴったりと酒をやめ、朝から仕事場に座って決まった時間働くと、ランプを手元に置き、聖書を読んで寝るのが習慣となった。

その晩もそうして聖書を読んでいたときだった。どこからか「マルチン！」と名を呼ばれた。振り返って戸口の方を見たが誰もいない。彼は寢床に入り、横になった。すると、突然はっきりと声が聞こえた。「マルチン！明日往来を見ていなさい。わたしが行くから」。マルチンは目を覚まし、椅子から立ち上がったが誰もいなかった。

翌朝早く起き、お祈りをしてから、窓際で仕事を始めたが、彼は往来の方ばかり見ていた。するとそこへ、隣家の商人の所に雇われているスパーヌイチという老人がやってきた。彼は雪をかく力もなく、疲れたようにたたずんでいた。マルチンは彼を店に招き入れ、温まらせてやってから、お茶を何杯も飲ませてやるのだった。

また靴の修理を始めると、みすばらしい身なりの女が子どもを抱いてやってきて、窓の所にたたずんでいるのが見えた。マルチンは飛び出して行って彼女を店に招き入れると、温かいシチューとパンを食べさせてやる。その上、帰るときに20カペイカ銀貨を与え、袖なしの上着まで与えてしまったのだった。それから、また窓の外を見ると、今度はリンゴの入ったかごを持った老婆が立ち止まるのが見えた。そのかごを置いた瞬間、ボロ着の男の子がやってきてそのリンゴを盗もうとした。怒った老婆は子どもを捕まえて殴ろうとした。あわてて駆け寄ったマルチンは、老婆をなだめて言うのだった。聖書の中には莫大(ばくだい)な負債のある小作人が主人から赦(ゆる)してもらった話があるが、自分たちはお互いに赦し合わなくてはならないのではないか——と。すると老婆はすっかり優しくなり、男の子も素直に老婆の背負っていた袋を代わりに背負ってやり、2人は仲良く歩いて行くのだった。

それからマルチンは仕事をし、その後店を閉めて、聖書を読もうと、昨夜革の切れ端をはさんでおいた所を開いた。しかし、どうしたわけか、別のページが開いてしまった。同時に、昨夜の夢がはっきりと思い出された。その時、彼は誰かが後ろに立っているような気配を感じた。そして、こんな声があったのである。

「マルチン！おまえにはわしが分からないのかね？」彼は「誰だね？」と言った。「これがわしだよ」と声が言った。その時、暗い片隅からステパーヌイチが出てきてにっこり笑ったかと思うと消えてしまった。

「これもわしだよ」と、また声が言った。そして暗い片隅から赤ん坊を抱いた女が出てきた。そしてにっこりすると、消えてしまった。「これもわしだよ」と声が言った。すると、老婆とリンゴを手にした男の子が出てきて、にっこりしたかと思うと消えてしまった。

マルチンは、十字を切り、眼鏡をかけて聖書を読み始めた。「これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです」(マタイ25:40)。その時、マルチンはまさしくこの日、彼のところに救世主が来られたことを知ったのだった。

解説・マタイによる福音書④

【人生のバランスを保つ】

私たちイエス・キリストに出会い、救われたクリスチャンとしての信仰生活で最も大切な言葉が新約聖書・マタイ福音書に記されています。経営危機にあったアサヒビールを復興させた樋口廣太郎さんは敬虔なカトリックとして「主なる神を愛し、己が内なる罪を憎み、隣人を愛する」をご自身の戒めとして歩まれたと聞いています。このような言葉を人生の指針としてバランスを保つ人は幸いです。

マタイ福音書には、イエス様が言われた人生のバランスを保つ大切な戒めと命令があります。

【最も大切な戒め】

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

『隣人を自分のように愛しなさい。』

私たちは神の喜びのために命を与えられています。その私たちの最も大切なことは「礼拝」を通して神への愛と信頼を表すことです。

また、私たちは「となり人」に仕えるために神により命を与えられています。聖霊によって賜った賜物を通して「となり人」に神が教えてくださった愛を示すことです。

《マタイ福音書22章35～40》

そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

《旧約聖書・申命記6:4～5》

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

《旧約聖書・レビ記19:17～18》

心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。

わたしは主である。

【大宣教命令】

復活されたイエスさまが弟子たちに「ガリラヤで会おう」と言われ、そのガリラヤでイエスさまが天に帰っていかれる直前に弟子たちとそれに続くキリスト者に対して望んでおられた事柄をお命じになったものです。常盤台教会のミッション・ステートメントも「大宣教命令」と「最も大切な戒め」を基としています。現・上尾キリスト教会の秋山信夫牧師が常盤台教会で研修をされた後、初任地・北海道の教会へ派遣される際に「大宣教命令」と題して常盤台教会で説教されたことは忘れることができません。

「行って、すべての民をわたしの弟子にしてください」

「洗礼（バプテスマ）を授け、教えなさい。」

私たちは神より使命を与えられています。それは福音を宣べ伝え、信仰を証しすることで聴いた人がイエス・キリストに出会うためです。

イエスさまは再び地上に戻られるまでの間(再臨)、私たちに救いに与った人々を神の家族としての交わりを通して神の教会・神の国に招くことを託されました。この神の教会で私たちがキリストに倣う者とされるように、すなわちキリストの弟子となるように成長・成熟していくこと願われているのです。

《マタイ福音書28章18～20》

イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

使徒言行録1章8節は大宣教命令の一部であるとも言われます。それは大宣教命令の働きは私たちに聖霊の働きが望むときに可能だからです。常盤台教会では主日礼拝の最後に司式者が「世に遣わされて行きましょう」と呼びかけています。これは礼拝に与った一人ひとりが大宣教命令の証し人として生きていくことの勧めでもあります。

《使徒言行録1:8》

ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。

【いつもあなたがたと共にいる】

イエスさまはよみがえり今も確かに生きて私たちと共におられ、守り導いてくださる。イエスさまはいつもご自身の民一人ひとりに関心を寄せて、一人ひとりと共にいてくださる。ひとりのお方がどのようにして何千、何万の人と共にいることができるのかは私たちの理解の外にあります。それでもイエスさまは「いつもあなたがたと共にいる」と言われたことには私たちには計り知れない意味があり、理解を越えることであったとしても現実に起きている事であると私たちは信じるのです。

私たちがどんなに弱く、罪深く、こころの貧しい者であっても、イエスさまは私たちの友として愛情深く見守り、忍耐をもって御国へ導いてくださるのです。

《マタイ福音書28:20》

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

【参考図書】

マタイ福音書(上) ウィリアム・バークレー 1967年 ヨルダン社

人生を導く5つの目的 リック・ウォレン 2015年 PDJ

新聖書ハンドブック ヘンリー・H・ハーレイ 2023年 いのちのことば社

(文責・郷秀男)

第48課 七の七十倍

聖書箇所：マタイによる福音書18章21-35節

主題聖句：帰りなさい。あなたが信じたとおりになるように。(13節)



21そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」 22イエスは言われた。「あなたに言っておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。 23そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。 24決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。 25しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。 26家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。 27その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。 28ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。 29仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。 30しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。 31仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛み、主君の前に出て事件を残らず告げた。 32そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。 33わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』 34そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。 35あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」



本日の聖書箇所は、『仲間を赦さない家来』のたとえです。

「きょうだい自分が自分に罪を犯したら、何回まで赦すべきでしょうか。七回までですか」とペトロはイエスさまに尋ねます。当時は、3回まで赦すようにと教えられていましたから、7回までというのは、大サービスだとペトロは思っていたことでしょう。しかし、イエスさまの答えは驚くべき、そして、途方に暮れるものでした。七の七十倍までということです。これは、もちろん、490回赦して、491回目からは赦さなくていいということではありません。無限に赦しなさいということです。

そこで、イエスさまは一つのたとえ話をします。

ある王から一万タラントンの借金をしていた家来が借金を返すように言われますが、返すことができないので、「どうか待ってください。きっと全部お返しします。」と懇願します。憐れに思った王は、彼を赦し、借金を帳消しにしてあげます。ところが、この家来は、自分に百デナリオンの借金をしていた仲間を赦せず、牢屋に入れてしまいます。そのことを聞いた王は、「わたしがお前を憐れんだように、おまえも仲間を憐れんで借金を帳消しにしてやるべきではなかったか」と言い、家来を牢屋に入れてしまうというお話です。

一万タラントンは約6,000億円、百デナリオンは約100万円です。確かに100万円も安い金額ではありませんが、6,000億円と比べると、この家来がたくさんを赦されたにもかかわらず、仲間の小さな罪を赦せなかったことがわかります。

このたとえ話を私たちに置き換えてみましょう。

お金のことでありません。神さまから目をそらし、自分中心に生きるという罪です。私たちは、この世の富や名声、欲や快樂に心を奪われ、神さまを心から追い出してしまう罪、周りの人々を傷つける罪を何度も犯しました。しかし、その罪を神さまは全て赦してくださいました。神さまは愛のお方で、神さまにできないことはありません。しかし、神さまが何の痛みも感じず、何の犠牲も払わずに、私たちの罪を赦してくださったのではありません。私たちにお与えくださった神さまのひとり子が十字架にかかるという大きな犠牲、これ以上ない痛みを負って、私たちの罪を赦してくださったのです。

一生かかっても、その一万分の一も返せないような大きな罪を赦されているにもかかわらず、自分に対して小さな罪を犯す周りの人々を赦すことができない私たちです。まずは、自分の罪に目を向け、全てを赦してくださった神さまに感謝しましょう。

神さまは愛のお方ですが、きょうだいが何をしても赦しなさいとおっしゃっているのではありません。

本日の聖書箇所直前の15～17節で、イエスさまは、「もし、あなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら忠告しなさい」とおっしゃっています。かなり具体的に書かれていますので、是非、読んでみてください。人に対して忠告するにはエネルギーがいります。できれば避けたいと思う方も多いでしょう。相手とけんかになるかもしれませんし、自分が悪く思われる可能性もあります。しかし、私たちが、当たらず触らず、事なかれ主義でやり過ごそうとする時、イエスさまは、罪を犯すきょうだいがいたら、きちんと向き合って、そのきょうだいが自分の罪に気付くようにしなければならぬとおっしゃいます。それは、そのきょうだいが、他のきょうだいをつまずかせることなく、神さまの救いの道に戻るためです。そして、きょうだいが自分の過ちを認めて謝るなら、何回でも、無限に赦しなさいとおっしゃるのです。

マタイによる福音書18章全体のテーマは「人間関係」です。山上の説教(5～7章)、弟子の心得(9章35節～10章42節)、「天の国のたとえ」(13章1～52節)に続く、第四の説教集とも言えます。私たちはキリストの体であり、一人一人は各器官です。神さまとつながっていることはもちろん大切ですが、つながっている者同士がいがみ合っていたら、神さまを悲しませてしまいます。誠実に向き合い、心から赦し合うところに、神さまに喜ばれる教会が生まれます。そのような関係を築けるよう、祈り求めてまいりましょう。

～分かち合い～

- 自分の罪が赦されていると感じるときはどのような時ですか？
- 人の罪を赦せないと思った経験、赦すことができた経験を分かち合ってみましょう。

今週の聖書日課

3月3日(月) 詩編32編1-2節

1【ダビデの詩。マスクール。】

いかに幸いなことでしょう

背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。

2いかに幸いなことでしょう

主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。

私は過去に、他人に迷惑を掛けたし、また掛けられた事を思い出します。クリスチャンになる前は、罪は法律上のもので、心の罪を考えた事がなかった事は、道徳心の欠如でした。クリスチャンになってから心の罪を知り、倫理観を学びました。ニュースでは経済苦の他に、妬みや憎しみから障害事件や殺人事件が報じられています。日々自分の罪を考え、反省する祈りが必要です。

3月4日(火) ルカによる福音書7章41-48節

41イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。42二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」43シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。44そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。45あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。46あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。47だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大ききで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」48そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。

神の赦しの他に对人関係の赦しもあります。聖書の学びなしに、他人を赦す心は起きません。他人を赦す事が出来れば、トラブルを少なくする効果はあります。相手がクリスチャンでない場合、ケースバイケースの対応が必要です。

3月5日(水) ローマの信徒への手紙2章1-4節

1だから、すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。2神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになると、わたしたちは知っています。3このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。4あるいは、神の憐れみあなたが悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

神の裁きとは別に、現代社会の法律はキリスト教の教えから敷衍しているものが多いようです。現代社会の法律では判決に実刑の他に執行猶予もあります。執行猶予中を無事経過すれば、刑を課さないと云う事です。しかし刑期満了し出所しても、社会に受け入れられず、再犯者が多いのが実情です。

3月6日(木) 列王記上8章38-43節

38あなたの民イスラエルが、だれでも、心に痛みを覚え、この神殿に向かって手を伸ばして祈るなら、そのどの祈り、どの願いにも、39あなたはお住まいである天にいまして耳を傾け、罪を赦し、こたえてください。あなたは人の心をご存じですから、どの人にもその人の歩んできたすべての道に従って報いてください。まことにあなただけがすべての人の心をご存じです。40こうして彼らは、あなたがわたしたちの先祖にお与えになった地で生を営む間、絶えずあなたを畏れ敬うでしょう。41更に、あなたの民イスラエルに属さない異国人が、御名を慕い、遠い国から来て、42——それは彼らが大きな御名と力強い御手と伸ばされた御腕のことを耳にするからです——この神殿に来て祈るなら、43あなたはお住まいである天にいましてそれに耳を傾け、その異国人があなたに叫び求めることをすべからせてください。こうして、地上のすべての民は御名を知り、あなたの民イスラエルと同様にあなたを畏れ敬い、わたしの建てたこの神殿が御名をもって呼ばれていることを知るでしょう。

ユダヤ人にとって、目に見える壮麗な神殿が如何に大切だったか。バビロン捕囚の子孫達はBC515年の神殿再建に奮闘しました。しかしイエスさまは、目に見えない真理を我々に教えてくれました。

3月7日(金) 出エジプト記34章4-10節

4モーセは前と同じ石の板を二枚切り、朝早く起きて、主が命じられたとおりにシナイ山に登った。手には二枚の石の板を携えていた。5主は雲のうちにあつて降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。6主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、7幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。」8モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏して、9言った。「主よ、もし御好意を示してくださいますならば、主よ、わたしたちの中にあつて進んでください。確かにかたくなな民ですが、わたしたちの罪と過ちを赦し、わたしたちをあなたの嗣業として受け入れてください。」

10主は言われた。「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしはあなたの民すべての前で驚くべき業を行う。それは全地のいかなる民にもいまだかつてなされたことのない業である。あなたと共にいるこの民は皆、主の業を見るであろう。わたしがあなたと共にあつて行うことは恐るべきものである。」

出エジプト記34章7節に「主は...父祖の罪を、子、孫の三代、四代までも問う者」とあります。江戸時代迄の日本では、ある人が罪をおこせば、連帯責任として、親兄弟妻子迄処罰されました。しかし新約聖書では罪を犯した人だけが処罰の対象になりました。

3月8日(土) 創世記2章15節

主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。16主なる神は人に命じて言われた。

「園のすべての木から取って食べなさい。17ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

創世記3章7節に、女は実を取って食べ、一緒にいた彼も食べた。「...二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした」衣服を纏わない野生の動物のような状態から、社会性を持った“人間”になりました。又、創世記3章18節に、「...野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る...」とあります。野生動物と同じように野の草を食べていたアダムとエバに、農耕をして麦を栽培し、パンを作るようにしました。

第49課 この最後の者にも

聖書箇所：マタイによる福音書20章1-16節

主題聖句：このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。(16節)

1「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。2主人は、一日につきデナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。3また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、4『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。5それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。6五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、7彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。8夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。9そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。10最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。11それで、受け取ると、主人に不平を言った。12『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすることは。』13主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。14自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。15自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』16このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

イエスさまがこのたとえ話をされたのは、手前の19章からの流れによります。有名な、金持ちの青年との会話が、「はっきりしておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」(19:23-24)とイエスさまが嘆かれ、「それでは、誰が救われるのだろうか」と弟子たちは疑問を持ちました。そこで彼らは自分たちが全てを捨てて付き従っていることを訴え、「何をいただけるのでしょうか」と迫ります。イエスさまは「わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子供、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。」(19:29)と答えられた上で、「しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」と付け足されます。ここから本日の箇所が始まり、「このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」と結ばれるのです。

19章の記述からは、「金持ち」を過剰に特別視していたり、自分たちの働きに明確な報いを求めていたりする、極めて人間的な弟子たちの姿が浮かび上がってきます。そのような弟子たちに、「天の国とはどのような場所か」を教えようとされたのが、本日のたとえ話なのです。

ぶどう園に夜明けからいた人たちは、自分たちが「早くからいた」「長く働いた」という「時間」そのものを問題にして憤ったのではなく、「働きの量」の多い・少ないを問題としていました。彼らは最後に来た人たちの何倍もぶどうを獲ったでしょうし、「まる一日、暑い中を辛抱して働いた」という訴えにもある通り、数字では表現しきれない苦労もありました。日が傾いてから短時間働いた人と同じ報酬では、その苦労が理解され、正當に評価されたとは感じられず、憤りへと繋がったのです。実に真つ当な怒りではないでしょうか。

今日の箇所を引用して、人生のいつ神さまに会い、いつ教会に通い始め、いつバプテスマを受けたのかは人それぞれであり、「早さ」「長さ」「順番」などで優劣が決まるものではない…ということはよく語られます。これらは、「時間」に視点を置いた読み方です。しかし「働きの量」に視点を置くと受け止め方が少し変わってきます。

私はクリスチャンホームで育ち、9歳でバプテスマを受け、今でも一定の時間を奉仕に割いていますので、「早朝から働いていた人」に近いと思います。しかしこれまでの歩みの中で、人が信仰を持つまでの道のりは極めて多様であり、一人ひとりに神さまの定められた最善の時があることを多々感じてきましたから、時間的な「早さ」「長さ」「順番」などが主の目に問題とならないことに、ネガティブな思いは全くありません。

しかし「働きの量」が問題とならないのであれば、例えば私と同年で、同じ時期にバプテスマを受け、同じ長さの時間をクリスチャンとして過ごしながら全く奉仕はしない方がいたとして、その人と自分も同じ評価をされるということです。その光景を想像すると、「いやいや、わたしコレだけ頑張っただけの収穫したんですけど…好きに過ごしたあの人と違って…」と、不満や憤りを感じてしまいそうな自分があります。

こうした思いの陰には、神さまではなく自分自身を誇り、神さまのために働くことは「すでに与えられた恵みへの応答」であって「恵みを得るための行為」ではないことを忘れた愚かさが存在するのだと思います。このたとえ話において、ぶどう園は天の国そのものです。本当は中に入れていただいた時点で恵みは成就しており、後はそれに感謝と応答を示すべく精一杯に働くのみなのです。早くから働いた人々は暑い中で苦勞をしたのも事実ですが、賃金の約束された安心感の中で1日を過ごせたことも事実です。後から来た人々は来た時間が遅ければ遅いほど、誰も雇ってくれず今日の賃金が得られそうもない、という不安な時間を長く過ごしていたのです。そしてぶどう園の主人は、先に来た人に賃金を払わないと言っているのではなく、「この最後の者」にも「あなたと同じように支払ってやりたい」と言ったのです。そう考えれば、早くから働いたことも、諦めかけた頃に雇ってもらえたことも、等しく神の憐れみ深さを表していると感じるのではないでしょうか。

今回の学びを通して、「後の者が先に、先の者が後に」というのは、「後から救われた者の方が、与えられた恵みの大きさに先に気づく」という意味にも捉えられる、と感じました。長くぶどう園にいて恵みに対して鈍感にならないよう、日々御言葉に触れ、主の愛に感謝し続けながら歩んでまいりましょう。

～分かち合い～

- 何時ごろにぶどう園に来た人に、一番共感や親しみを覚えますか。
- 「先の者が後に、後の者が先に」という御言葉を実感した出来事がありますか。

今週の聖書日課

3月10日(月) ローマの信徒への手紙 11章25-36節

25兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、26こうして全イスラエルが救われるということです。次のように書いてあるとおりです。

「救う方がシオンから来て、ヤコブから不信心を遠ざける。

27これこそ、わたしが、彼らの罪を取り除くときに、彼らと結ぶわたしの契約である。」

28福音について言えば、イスラエル人は、あなたがたのために神に敵対していますが、神の選びについて言えば、先祖たちのお陰で神に愛されています。29神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。30あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けています。31それと同じように、彼らも、今はあなたがたが受けた憐れみによって不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今憐れみを受けるためなのです。32神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められました。それは、すべての人を憐れむためだったのです。

33ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。

34「いったいだれが主の心を知っていたであろうか。

だれが主の相談相手であったらうか。

35だれがまず主に与えて、その報いを受けるであろうか。」

36すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

イスラエルの民が頑なに心を閉ざしたので、福音は異邦人へと伝えられ、ローマの教会が建てられました。そしてやがて全イスラエルも救われるようになります。主はすべてを救うお方であり、その救いの計画は壮大で、私たちの知識や思いをはるかに超えた素晴らしいものです。

3月11日(火) ネヘミヤ記5章1-13節

1民とその妻たちから、同胞のユダの人々に対して大きな訴えの叫びがあがった。2ある者は言った。「わたしたちには多くの息子や娘がいる。食べて生き延びるために穀物がほしい。」3またある者は言った。「この飢饉のときに穀物を得るには畑も、ぶどう園も、家も抵当に入れなければならない。」4またある者は言った。「王が税をかけるので、畑もぶどう園も担保にして金を借りなければならない。」5同胞もわたしたちも同じ人間だ。彼らに子供があれば、わたしたちにも子供がある。だが、わたしたちは息子や娘を手放して奴隷にしなければならない。ある娘はもう奴隷になっている。どうすることもできない。畑とぶどう園はもう他人のものだ。」

6この嘆きと訴えを聞いて、わたしは大いに憤りを覚え、7居たたまれなくなって貴族と役人をこう非難した。「あなたたちは同胞に重荷を負わせているではないか。」わたしはまた大きな集会を召集して、8言った。「わたしたちは異邦人に売られていた同胞のユダの人々を、できるかぎり買い戻した。それなのに、あなたたちはその同胞を売ろうというのか。彼らはわたしたち自身に売られることになるのに。」彼らは黙りこみ、何も言えなかった。9わたしは言った。「あなたたちの行いはよくない。敵である異邦人に辱められないために、神を畏れて生きるはずではないのか。10わたしも、わたしの兄弟も部下も金や穀物を貸している。わたしたちはその負債を帳消しにする。11あなたたちも今日あなたたちに負債のある者に返しなさい。畑も、ぶどう園も、オリーブ園も、家も、利子も、穀物も、ぶどう酒も、油も。」12彼らはそれに答えた。「返します。何も要求しません。お言葉どおりにします。」わたしはこの言葉どおり行こうと誓わせるために祭司たちを呼んだ。13わたしはまた衣の折り重ねたところを振るいながら言った。「この約束を守らない者はだれでも、このように神によってその家と財産から離され、振るい落とされるように。このように振るい落とされて無一物となるように。」会衆は皆で、「アーメン」と答え、神を賛美した。民はその言葉どおり行った。

捕囚から帰還した民の大部分は貧しく、そのための物資の供給にも問題が生じ、金持ちが高利で金を貸し、担保として財産を要求する搾取が始まりました。利己的な心・お金を主体とする考え方は真の神を見失います。私たちが所有しているものは、神から借りているものです。苦しいときはそれを分かち合える共同体を神は望まれます。

3月12日(水) ヘブライ人への手紙4章1-11節

1だから、神の安息にあずかる約束がまだ続いているのに、取り残されてしまったと思われる者があなたがたのうちから出ないように、気をつけましょう。2というのには、わたしたちにも彼ら同様に福音が告げ知らされたからです。けれども、彼らには聞いた言葉は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです。3信じたわたしたちは、この安息にあずかることができるのです。

「わたしは怒って誓ったように、

『彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない』

と言われたとおりです。もっとも、神の業は天地創造の時から、既に出来上がっていたのです。4なぜなら、ある個所で七日目のことについて、「神は七日目にすべての業を終えて休まれた」と言われているからです。5そして、この個所でも改めて、「彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない」と言われています。6そこで、この安息にあずかるはずの人々がまだ残っていることになり、

また、先に福音を告げ知らされた人々が、不従順のためにあずからなかったのですから、7再び、神はある日を「今日」と決めて、かなりの時がたった後、既に引用したとおり、「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、心をかたくなにしてはならない」とダビデを通して語られたのです。8もしヨシヤが彼らに安息を与えたとするのなら、神は後になって他の日について語られることはなかったでしょう。9それで、安息日の休みが神の民に残されているのです。10なぜなら、神の安息にあずかった者は、神が御業を終えて休まれたように、自分の業を終えて休んだからです。11だから、わたしたちはこの安息にあずかるように努力しようではありませんか。さもないと、同じ不従順の例に倣って墮落する者が出るかもしれません。

旧約の時代にイスラエルの民が約束の地に入れなかったのは、「御言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかつた」（2節）ためです。主イエスの十字架と復活を知っていながら、信仰を持って受け入れなければ、私たちはどうなるのでしょうか？聖書は、福音を信じ受け入れる者には、天において安息を得ることができると語っています。

3月13日（木） 出エジプト記1章15-21節

15エジプト王は二人のヘブライ人の助産婦に命じた。一人はシフラといい、もう一人はプアといった。16「お前たちがヘブライ人の女の出産を助けるときには、子供の性別を確かめ、男の子ならば殺し、女の子ならば生かしておけ。」17助産婦はいずれも神を畏れていたため、エジプト王が命じたとおりにせず、男の子も生かしておいた。18エジプト王は彼女たちを呼びつけて問いただした。「どうしてこのようなことをしたのだ。お前たちは男の子を生かしているではないか。」19助産婦はファラオに答えた。「ヘブライ人の女はエジプト人の女性とは違います。彼女たちは丈夫で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」20神はこの助産婦たちに恵みを与えられた。民は数を増し、甚だ強くなった。21助産婦たちは神を畏れていたため、神は彼女たちにも子宝を恵まれた。

助産婦たちは、王の命令より神を畏れ、多くの赤ちゃんの命を守りました。その結果、神は彼女たちを祝福し恵みをお与えになりました。私たち一人ひとりはとても小さな存在ですが、心から神を畏れ信じて行動するとき、それがたったひとりやふたりであったとしても、神の大きな働き的一端を担うことに繋がります。

3月14日（金） マタイによる福音書18章1-5節

1そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。2そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、3言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。4自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。5わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

映画俳優のデンゼル・ワシントンが自分が有名な映画スターになったことを自慢げに、母親に「僕がこんなに有名になるとかと思っていた？」と尋ねました。すると母親は「何を言ってるんだい。昔のお前は愚か者だった。どれだけの人がお前のことを心配して祈ってくれたか、お前にはわかってない」と答えたとか。この世の成功や栄光は天の国には必要ありません。子どものような素直な心で自分を低くし、神を受け入れ、信頼するとき、天の国に入ることができます。

3月15日（土） マルコによる福音書10章13-16節

13イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。14しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。15はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」16そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

主イエスは弱き者、小さき者を愛されました。神の国は領土ではなく、神の恵みの中に入れられるということです。主イエスを信じ弟子となることは、神の国に入ることと同じです。無力で弱い子どものように父（親）に全幅の信頼を置き、謙虚な心で招きに応じてまいりましょう。

第50課 幼子や乳飲み子たちの賛美

聖書箇所：マタイによる福音書21章12-17節

主題聖句：境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄って来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。(14節)

12それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。13そして言われた。「こう書いてある。

『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』

ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にしている。」

14境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄って来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。15他方、祭司長たちや、律法学者たちは、イエスがなされた不思議な業を見、境内で子供たちまで叫んで、「ダビデの子にホサナ」と言うのを聞いて腹を立て、16イエスに言った。「子供たちが何と言っているか、聞こえるか。」イエスは言われた。「聞こえる。あなたたちこそ、『幼子や乳飲み子の口に、あなたは賛美を歌わせた』という言葉はまだ読んだことがないのか。」17それから、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊まりになった。

この場面はイエスさまを描いた映画の見せ場のひとつと言える場面として皆さんも印象にあるのではないのでしょうか。穏やかなイエスさまが怒りをあらわにするこの場面は私たちには一見、「少しやり過ぎ」に見えてしまうのではないのでしょうか。

私はこの箇所はイエスさまの父なる神さまに対する姿勢が表れている場面と読み取れます。時代劇で家臣が「わが主（あるじ）を愚弄するな！」と怒る場面がよくありますが、「我が主」と日々祈っているのに、「神さまなんていない」、「神などは人が想像して作ったもの」、と否定された時、悲しくはなれど、それに対して怒りを覚えることが無い私たちがいます。「主なる神を畏れよ」という聖句があります。私たちの神は「愛の神」、主なるイエスさまは「私たちの良き隣人、友になってくださる方」なので、「神を畏れる」という意識が薄れてしまっている感じを受けます。神さまの方から私たちのために寄り添って来て下さっていることもあり、「それで良いのかな」と思う反面、もう少し畏怖の念を持つべきという思いもあります。「私の信じる神さまを否定することは、私を否定することになるから言葉には気をつけてね」ぐらいは言えるようになりたいですね。

14節でイエスさまが境内から売り買いしていた人々を追い出した後に、「境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄って来た」とあります。エルサレム神殿、最大の巡礼地として、境内にまで両替屋や捧げものを売る店が並び、観光地と化してしまっていた神殿（神さまの家）にやっと救いを祈り求める方々が境内に入ることが出来たのではないのでしょうか。そして、その人たちを癒すイエスさま、その奇跡を見て子供たちまでも喜び叫ぶ。周りの群衆も奇跡を目の当たりにし、「噂通りのお方だ」となっていたと想像できます。その場にいた祭司長や律法学者たちの反応も戸惑いを感じられるような言動に読み取れます。14節以降の記述はマタイによる福音書のみに記載されていますが、映画等ではこの後半の部分もセットで表現しないと、この聖句を通して伝えたいことがしっかりと伝わらないように思えました。怒りをあらわにするイエスさまの姿が印象に残りやすい箇所ではありますが、その後多くの人々を癒すことで神さまの深い愛をお示しになった姿も、大切に心に留めたいと思います。

～分かち合い～

- 皆さんには「ダビデの子にホサナ！」、「イエスさまありがとう！」「神さまに栄光あれ！」と叫びたくなった出来事はありますか。



今週の聖書日課

3月17日(月) イザヤ書56章1-8節

1主はこう言われる。
正義を守り、恵みの業を行え。
わたしの救いが実現し
わたしの恵みの業が現れるのは間近い。
2いかに幸いなことか、このように行う人
それを固く守る人の子は。
安息日を守り、それを汚すことのない人
悪事に手をつけないように自戒する人は。
3主のもとに集って来た異邦人は言うな
主は御自分の民とわたしを区別される、と。
宦官も、言うな
見よ、わたしは枯れ木にすぎない、と。
4なぜなら、主はこう言われる
宦官が、わたしの安息日を常に守り
わたしの望むことを選び
わたしの契約を固く守るなら
5わたしは彼らのために、とこしえの名を与え
息子、娘を持つにまさる記念の名を

わたしの家、わたしの城壁に刻む。
その名は決して消し去られることがない。
6また、主のもとに集って来た異邦人が
主に仕え、主の名を愛し、その僕となり
安息日を守り、それを汚すことなく
わたしの契約を固く守るなら
7わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き
わたしの祈りの家の喜びの祝いに
連なることを許す。
彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら
わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。
わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。
8追い散らされたイスラエルを集める方
主なる神は言われる
既に集められた者に、更に加えて集めよう、と。

律法では禁じられていましたが、主は異邦人、宦官も差別しないで、主の救い、恵みの喜びの祝宴(神殿)に招いて下さいます。

私たちも、主を愛し安息日を守り主との契約を守ろうとするどの様な方々も、心からお迎えして共に礼拝しお祈りをお捧げいたしたいです。

3月18日(火) エレミヤ書7章1-11節

1主からエレミヤに臨んだ言葉。
2主の神殿の門に立ち、この言葉をもって呼びかけよ。そして、言え。
「主を礼拝するために、神殿の門に入って行くユダの人々よ、皆、主の言葉を聞け。3イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。お前たちの道と行いを正せ。そうすれば、わたしはお前たちをこの所に住まわせる。4主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼んではならない。5-6この所で、お前たちの道と行いを正し、お互いの間に正義を行い、寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、無実の人の血を流さず、異教の神々に従うことなく、自ら災いを招いてはならない。7そうすれば、わたしはお前たちを先祖に与えたこの地、この所に、とこしえからとこしえまで住まわせる。8しかし見よ、お前たちはこのむなしい言葉に依り頼んでいるが、それは救う力を持たない。9盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バルに香をたき、知ることもなかった異教の神々に従いながら、10わたしの名によって呼ばれるこの神殿に来てわたしの前に立ち、「救われた」と言うのか。お前たちはあらゆる忌むべきことをしているではないか。11わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる。

今まで歩んで来た道のりを振り返り、虐げられた人々、苦しむ人々にどの様に接してきたのかを問われます。「救われた」と言いながら、主の忌み嫌うことを重ねてしまう事のない様に気をつけたいです。「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。」(ヤコブ2:17)との厳しいお言葉もあります。

3月19日(水) エズラ記3章10-13節

10建築作業に取りかかった者たちが神殿の基礎を据えると、祭服を身に着け、ラッパを持った祭司と、シンバルを持ったアサフの子らであるレビ人が立って、イスラエルの王ダビデの定めに従って主を賛美した。11彼らも「主は恵み深く、イスラエルに対する慈しみはとこしえに」と唱和して、主を賛美し、感謝した。主の神殿の基礎が据えられたので、人も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。12昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。13人々は喜びの叫び声と民の泣く声を識別することができなかった。民の叫び声は非常に大きく、遠くまで響いたからである。

私たちも歩んできた道や年齢によって、主への思いの表現方法・証が異なるかもしれませんが、「主は恵み深く、イスラエルに対する慈しみはとこしえに」と唱和したイスラエルの民の様に、主への思いを一つにし、喜んで主を礼拝し賛美することができますように主よお導きください。

3月20日(木) 出エジプト記18章12-26節

12モーセのしゅうとエトロは焼き尽くす献げ物といけにえを神にささげた。アロンとイスラエルの長老たちも皆来て、モーセのしゅうとと共に神の御前で食事をした。

13翌日になって、モーセは座に着いて民を裁いたが、民は朝から晩までモーセの裁きを待って並んでいた。14モーセのしゅうとは、彼が民のために行っているすべてを見て、「あなたが民のためにしているこのやり方はどうしたことか。なぜ、あなた一人だけが座に着いて、民は朝から晩まであなたの裁きを待って並んでいるのか」と尋ねた。15モーセはしゅうとに、「民は、神に問うためにわたしのところに来るのです。16彼らの間に何か事件が起こると、わたしのところに来ますので、わたしはそれぞれの間を裁き、また、神の掟と指示とを知らせるのです」と答えた。17モーセのしゅうとは言った。「あなたのやり方は良くない。18あなた自身も、あなたを訪ねて来る民も、きっと疲れ果ててしまうだろう。このやり方ではあなたの荷が重すぎて、一人では負いきれないからだ。19わたしの言うことを聞きなさい。助言をしよう。神があなたと共におられるように。あなたが民に代わって神の前に立って事件について神に述べ、20彼らに掟と指示を示して、彼らの歩むべき道となすべき事を教えなさい。21あなたは、民全員の中から、神を畏れる有能な人で、不正な利得を憎み、信頼に値する人物を選び、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長として民の上に立てなさい。22平素は彼らに民を裁かせ、大きな事件があったときだけ、あなたのもとに持って来させなさい。小さな事件は彼ら自身で裁かせ、あなたの負担を軽くし、あなたと共に彼らに分担させなさい。23もし、あなたがこのやり方を実行し、神があなたに命令を与えてくださるならば、あなたは任に堪えることができ、この民も皆、安心して自分の所へ帰ることができよう。」24モーセはしゅうとの言うことを聞き入れ、その勧めのとおりし、25全イスラエルの中から有能な人々を選び、彼らを民の長、すなわち、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長とした。26こうして、平素は彼らが民を裁いた。難しい事件はモーセのもとに持って来たが、小さい事件はすべて、彼ら自身が裁いた。

エトロの適確な指示で組織化され、モーセは煩雑さから解放されました。教会でも様々な会がありますが、リーダー・メンバーの方々が愛と忍耐を持って携わっていて下さる事を感謝いたします。そしてご奉仕をいく倍にも増してくださる聖霊さまのお働きに感謝し賛美いたします。

3月21日(金) コリントの信徒への手紙1 | 3章4-7節

4愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。5礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。6不義を喜ばず、真実を喜ぶ。7すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

聖書は読む時によって何時も違う感想が与えられますが、今回は「あら、これは私たち自身に平安と喜びが与えられる秘訣！尚且つ神さま(人々にも)に喜ばれる教え。」と思いました。コリ112:31bに「わたしはあなたがたに最高の道を教えます。」とありますが、アーメンです。

3月22日(土) 詩編18編26-31節

26あなたの慈しみに生きる人に
あなたは慈しみを示し
無垢な人には無垢に
27清い人には清くふるまい
心の曲がった者には背を向けられる。
28あなたは貧しい民を救い上げ
高ぶる目を引き下ろされる。
29主よ、あなたはわたしの灯を輝かし

神よ、あなたはわたしの闇を照らしてくださる。
30あなたによって、わたしは敵軍を追い散らし
わたしの神によって、城壁を越える。
31神の道は完全
主の仰せは火で練り清められている。
すべて御もとに身を寄せる人に
主は盾となってくださる。

旧約の時代の神さまはとても厳しいお方とありますが、ここの箇所では深い慈しみに満ちたお方で、主のみもとに身を寄せる者全てを盾となって守って下さるお方であることを告白されています。「主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」(出エ14:14) 秘めた力が湧いてきます。

第51課 仕える者

聖書箇所：マタイによる福音書23章1-12節

主題聖句：だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。(12節)

1それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。2「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。3だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。4彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。5そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。6宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、7また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。8だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。9また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。10『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。11あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。12だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

今週の聖書教育誌の週題は「仕える者」です。

「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。23:11」イエスさまの言葉には驚かされます。私たちの社会常識ではいちばん偉い人は周囲の人たちから仕えられる人だからです。しかし、イエスさまは言われます。「**人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。マルコ10:45**」このマルコ福音書の中心テーマともいべきイエスさまの言葉は私たちの社会や隣人との関係性を根底から考え直すにはおられないのです。

私たちには虚栄心が少なからずあります。そのために人によく見られたいと見栄を張ったり、見下されたくないと考えたり、そのような目で見られないように相手にへつらうことさえも時としてあるのではないのでしょうか。

「仕える」は「奉仕する」とも言い換えることができる言葉です。聖書が示す世の光・地の塩としての働きをする人のことをサーバント・リーダーと呼ぶことがあります。サーバント"servant"は「仕える者」、しもべです。リーダー"leader"は指導者です。この言葉はトップに立って権力を持ち、人の上に立ち物事を進めていくのではなく、いちばんの低みにまで降り、寄り添い、共に歩み、まさにボトムアップから物事を善き方向へと成していくリーダーを言います。まさにイエス・キリスト自身の姿と重なります。律法学者とファリサイ派の人たちは月日を重ねるうちにいつしか内面の信仰よりも外面の体裁を立派に装うことが自分たちを同胞が認めることだと思い違いをしたのでしょうか。その行動、行いは自分をよりよく信心深く見せようとして人々からの注目を集めることにあったのでしょうか。イエスさまは彼らの本質を見抜かれて見倣ってはならないと言われたのです。

実際に彼らはどんな行動をしていたのでしょうか。律法学者は紀元前410年ごろ祭司エズラにより十戒とモーセ五書からなる律法がイスラエルの民の基盤であることを改めて教えられ、「律法の民」・ユダヤ人となる道を支えるために律法を学ぶ特別な人たちです。律法はユダヤ人にとっては神の言葉そのものであり、日常生活に律法を照らすことで数々の規則、規定(タルムード)を定めて行きました。それが「**彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せる**23:4」が「**自分ではそれを動かすために、指一本貸さない**23:4」と彼らの行いを非難されました。つまりは言行不一致なのです。

ファリサイ派の人たちは紀元前170年代にユダヤを支配したヘレニズム勢力の影響から正統なユダヤ教を守ろうと分離した人々です。彼らの多くは一般の市民ですが律法学者がつくり出した規則、規定を堅く守ることに熱心でした。次第に内面よりも人に見せるために外見を変えていくことになりました。「**聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。**23:5」小箱は「テフィリン・聖句箱」と呼ばれ、13歳の成人式を終えたユダヤの成人男子が平日の朝の祈りの時に額に付けます。**衣服**とは礼拝や祈りのときに着用する「タツリート」と呼ばれるショールで、それには「ツィーツィート」という四本の房が付いています。いずれも旧約の申命記(6:4～9、22:12)などで神の戒めを忘れないために定められたものです。これらをことさら誇張して大きくしたり、長くして見せたり、上座に座り自分をラビ、先生、教師と呼ばれることを好んでいたことは、自らを特権階級に置いて信仰がより正統で深いことを人々に見せかける行為でした。イエスさまの言われる「仕える者」からは遠い人たちでした。

そこでイエスさまは言われました。「**あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ**23:8」「**あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。**23:9」「**あなたがたの教師はキリスト一人だけである。**23:10」

キリスト者にとって教師はただお一人、イエス・キリストであり、信仰の父はただお一人、父なる神とイエスさまは教えておられるのです。律法学者やファリサイ派の人たち、そして私たちも神の戒めを頭では理解していても、行動は神を見ないで人の目を気にする。そのような弱さを持った人間です。だからこそイエスさまに倣いたいと願います。そのイエスさまはへりくだり「仕える者」としての大切さを教えておられるのです。

イエスさまに倣い、従うことは、神を求めるすべての人に仕え、すべての人を受け入れることです。

私たちの常盤台教会のミッション・ステートメントの第2項にはこのように記してあります。

「主にあって招かれるすべての人々と共に神の恵みに与り、互いに愛し、仕え合います。」

「仕える者・奉仕する者」としての証しの生活を通して「喜んで仕える者・喜んで奉仕する者」とされるのです。

～分かち合い～

- 仕えること、奉仕することに喜びを与えられた体験を分かち合ってみましょう。

● 今週の聖書日課 ●

3月24日（月） ヤコブの手紙3章1-2節

1わたしの兄弟たち、あなたがたのうち多くの人が教師になってはなりません。わたしたち教師がほかの人たちより厳しい裁きを受けることになる、あなたがたは知っています。2わたしたちは皆、度々過ちを犯すからです。言葉で過ちを犯さないなら、それは自分の全身を制御できる完全な人です。

わたしたちは皆、度々過ちを犯すからです。特に言葉で過ちを犯します。ピラトは言った。「この人はどんな悪事を働いたと言うのか」「十字架につける、十字架につける」群衆は叫び続けた。(本当にそう思って叫んでいるのですか。いや、周りが十字架につけると叫んでいるので、わたしも叫んでいるのです)群衆はますます激しく叫び続けた。ピラトはこれ以上言っても無駄だと思った。イエスさま、愚かな群衆(わたしたち)をおゆるし下さい。

3月25日（火） ガラテヤの信徒への手紙6章1-10節

1兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。2互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。3実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。4各自で、自分の行いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対しては誇る事ができません。5めいめいが、自分の重荷を担うべきです。6御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。7思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取るようになるのです。8自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。9たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることとなります。10ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。

「たゆまず善を行いましょう」思いやりの心で善を行いましょう。相手もわたしも喜びに満たされます。皆、助け合いましょう。平和な世界になります。イエスさまは言われます「愛し合いなさい」ありがとうございます。

3月26日（水） 詩編2編10-12節

10すべての王よ、今や目覚めよ。
地を治める者よ、諭しを受けよ。
11恐れ敬って、主に仕え
おののきつつ、喜び躍れ。
12子に口づけせよ
主の憤りを招き、道を失うことのないように。
主の怒りはまたたくまに燃え上がる。

いかに幸いなことか
主を避けどころとする人はすべて。

「すべての王よ、今や目覚めよ」国民が貧しく苦しんでいる国があります。王さま、気づいて下さい。国民が幸せになることは、国が豊かになることです。国民に仕事を与えましょう。税金は少なく取りましょう。上下水道を、住宅を、学校を、病院をつくりましょう。善き行いをする人には、主が寄り添い導いて下さいます。あなたの名声は高まるでしょう。王さま、あなたならおできになります。

3月27日(木) ヨシュア記24章14-15節

14あなたたちはだから、主を畏れ、真心を込め真実をもって彼に仕え、あなたたちの先祖が川の向こう側やエジプトで仕えていた神々を除き去って、主に仕えなさい。 15もし主に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。」

「仕えたいと思う神々を、今日、自分で選びなさい」わたしの父、母は浄土真宗のお寺のお墓に眠っています。わたしの妻は常盤台バプテスト教会墓地に眠っています。わたしはイエスさまを信じていますので、妻の墓地に入ります。でも、浄土真宗も好きです。阿弥陀如来さまはイエスさまに少し似ていますので。

3月28日(金) 申命記10章17-20節

17あなたたちの神、主は神々の中の神、主なる者の中の主、偉大にして勇ましく畏るべき神、人を偏り見ず、賄賂を取ることをせず、 18孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。 19あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。 20あなたの神、主を畏れ、主に仕え、主につき従ってその御名によって誓いなさい。

「あなたたちの神、主は神々の中の神、主なる者の中の主、偉大にして勇ましく恐るべき神.....」神さま、イエスさまのことを学んでいたい。聖書を毎日少しずつ読みましょう。礼拝で牧師の宣教を聴きましょう。成人科の学びの会に参加しましょう。信仰を深めたいとする行いを、イエスさまは喜んで下さいます。

3月29日(土) ヨハネによる福音書13章3-7節

3イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、 4食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまどわれた。 5それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまどった手ぬぐいでふき始められた。 6シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。 7イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。

イエスさまは弟子たち一人一人の汚れた足を洗いました。愛しておられるからです。イエスさまはいつもわたしと一緒にいてくださいます。わたしの汚れた箇所をご存じです。清くしようとわたしに働きかけて下さいます。イエスさま、ありがとうございます。

第52課 最も小さい者の一人に

聖書箇所：マタイによる福音書25章31-46節

主題聖句：わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。(34節)

31「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。32そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、33羊を右に、山羊を左に置く。34そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。35お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、36裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』37すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。38いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。39いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』40そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

41それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。42お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、43旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』44すると、彼らも答える。

『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気があったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』45そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』46こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。』

今週の聖書教育誌の週題は「もっとも小さい者の一人に」です。

ロシアの文豪トルストイは晩年になり一般の民衆がよりキリスト教を理解できるようにと民話という形で作品を世に出しました。「愛のあるところに神あり」別名「靴屋のマルチン」は

『はっきり言うておくわたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。25:40』このみ言葉の意味を解き明かした名作です。

24章から25章はイエスさまが再び世に来られるときに起きる出来事をイエスさまご自身が語られています。それはイエスさまは三日後に迫った十字架の現実を見るであろう弟子たちが、驚きと失望により信仰を失ってしまうことをご存じでしたので彼らが現実から立ち上がり希望を持って歩むことが出来るようにと語られたのです。人間・イエスさまなら十字架で話しは終わりです。しかし、神の独り子・イエスさまの救い(再臨・御国を受け継ぐ)はこれからなのです。

「これらのことがみな起こるまでは24:34」とされるその日は「その日、その時は、誰も知らない24:36」ことであり、神の領域について人は知ることは赦されていないので心を整えて常に備えなさいと教えておられるのです。

トルストイが語った靴屋のマルチンの物語は「明日、あなたに会いに行く」との言葉を聞いて、マルチンは一日中待ちますが、とうとうその声の主には会えずじまいでガッカリしているときに「私は、あなたに会った」と声が聴こえるのです。そして、今日始めて出会って優しく接した人たちが次々とマルチンの前に姿が現れるのです。ここで教えられることは、何か特別な賜物とか、力がなければ出来ないようなことではないことがマルチンの物語からもわかります。イエスさまは地上の社会で最も弱い立場に置かれた人たちに徹底的に寄り添われました。

『飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。25:35～36』 これらのことは私たちにもそのようにしなさいと言われているのです。何か特別な地位や力がなくとも誰にでもたやすく出来ることです。また、これらの行いはたやすいがゆえに結果としてイエスさまを助けたなどとは思ってもいけないのですが立派な愛の行動です。さらに見返りを求めることがない尊い行いです。しかし、私たちは人を見てしまう弱さ、愚かさをもつ罪深い存在であることを認めなければなりません。善きサマリヤ人の譬えにあるように傷ついた人を目の前にしても気づかぬふりをして通り過ぎてしまうことが私にはむしろ多いと告白しなければなりません。

イエスさまは助けを求める人たちをあなたや私に出来ることでよいからマルチンが店の外に出て行って助けたように同じようにしてみなさいと言われているのです。誰にでも出来るたやすいことではありますが私たちが意思を持って一歩踏み出さないと出来ないことでもあるのです。

『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。25:45』

この31節から46節までのイエスさまの言葉は、直接には伝道に派遣した弟子たちを迎えた人たちが成したことに対するものでもあります。助ける相手を見定めて、助ける人、助けない人を選んでいたら、また、時を選んでしまうとしたらイエスさまを否んでいる事になるのかもしれない。

となり人に手を差しのべるようとするときに、実はたやすいことでも躊躇することもあり、案外難しいことでもあります。それでも神を知り、自分の内にある罪を悔いてイエスさまに出会った人にはマルチンのようにその時がくれば同じように踏み出す力が与えていただけるのではないのでしょうか。

～分かち合い～

- イエスさまが傍らにおられると感じるときがこれまでにありましたか。

今週の聖書日課

3月31日(月) エゼキエル書34章17-22節

17お前たち、わたしの群れよ。主なる神はこう言われる。わたしは羊と羊、雄羊と雄山羊との間を裁く。18お前たちは良い牧草地で養われていながら、牧草の残りを足で踏み荒らし、自分たちは澄んだ水を飲みながら、残りを足でかき回すことは、小さいことだろうか。19わたしの群れは、お前たちが足で踏み荒らした草を食べ、足でかき回した水を飲んでいる。

20それゆえ、主なる神は彼らにこう言われる。わたし自身が、肥えた羊とやせた羊の間を裁く。21お前たちは、脇腹と肩ですべての弱いものを押しのけ、角で突き飛ばし、ついには外へ追いやった。22しかし、わたしはわが群れを救い、二度と略奪にさらされないようにする。そして、羊と羊との間を裁く。

「わたしの群れは、お前たちが足で踏み荒らした草を食べ、足でかき回した水を飲んでいる」貧富の差、上司部下の差等で優位に立つ者とひげめを感じる者の差ができてしまいます。優位に立つものは、横暴になったり支配的になってはいけません。立場の違いだけで人は皆平等です。富む人は貧しき人を助けてあげましょう。上下の関係は信頼しあいましょう。その人たちは、喜びと平和が与えられます。イエスさまは言われます。「あなたの隣人を愛しなさい」ありがとうございます。

4月1日(火) マラキ書3章13-18節

13あなたたちは、わたしにひどい言葉を語っている、と主は言われる。ところが、あなたたちは言う
「どんなことをあなたに言いましたか、と。」

14あなたたちは言っている。
「神に仕えることはむなしい。」

たとえ、その戒めを守っても
万軍の主の御前を
喪に服している人のように歩いても
何の益があるうか。

15むしろ、我々は高慢な者を幸いと呼ぼう。
彼らは悪事を行っても栄え
神を試みても罰を免れているからだ。」

16そのとき、主を恐れ敬う者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて聞かれた。神の御前には、主を恐れ、その御名を思う者のために記録の書を書き記された。

17わたしが備えているその日に
彼らはわたしにとって宝となると
万軍の主は言われる。

人が自分に仕える子を憐れむように
わたしは彼らを憐れむ。

18そのとき、あなたたちはもう一度
正しい人と神に逆らう人
神に仕える者と仕えない者との
区別を見るであろう。

指導者、管理者たちは、権力を握ると高慢になる人がいます。権力により、彼らは悪事をしてでも栄える。罰をまぬがれる。神に仕える者は、そんな世界はむなしいと言います。神さまはそれをゆるさめはずはありません。悪事は必ず明るみに出ます。罰は与えられます。神さまは仕えるあなた方の声を聞いて下さいます。

4月2日(水) ローマの信徒への手紙12章9-21節

9愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、10兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。11息らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。12希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。13聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。14あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。15喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。16互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。17だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。18できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。19愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「復讐はわたしのすること、わたしが報復する」と主は言われる」と書いてあります。20「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」21悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。

神さま、イエスさまを知らない人でも、違う宗教の方でも、良い行いをする人はたくさんおられます。神さまはその人たちにも祝福をお与えになります。人は神に似せてつくられました。人は誰も心に愛を持っています。イエスさまを知ると、その愛はもっと豊かになります。

4月3日(木) ホセア書11章1-9節

1まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。
エジプトから彼を呼び出し、わが子とした。
2わたしが彼らを呼び出したのに
彼らはわたしから去って行き
バアルに犠牲をささげ
偶像に香をたいた。
3エフライムの腕を支えて
歩くことを教えたのは、わたしだ。
しかし、わたしが彼らをいやしたことを
彼らは知らなかった。
4わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き
彼らの顎から軛を取り去り
身をかがめて食べさせた。
5彼らはエジプトの地に帰ることもできず
アッシリアが彼らの王となる。
彼らが立ち帰ることを拒んだからだ。
6剣は町々で荒れ狂い、たわ言を言う者を断ち
たくらみのゆえに滅ぼす。

7わが民はかたくなにわたしに背いている。
たとえ彼らが天に向かって叫んでも
助け起こされることは決してない。

8ああ、エフライムよ
お前を見捨てることができようか。
イスラエルよ
お前を引き渡すことができようか。
アダムのようにお前を見捨て
ツェボイムのようにすることができようか。
わたしは激しく心を動かされ
憐れみに胸を焼かれる。
9わたしは、もはや怒りに燃えることなく
エフライムを再び滅ぼすことはしない。
わたしは神であり、人間ではない。
お前たちのうちにあつて聖なる者。
怒りをもって臨みはしない。

「ああ、エフライムよ。お前を見捨てることができようか。」何度も背かれても、主はわたしたちを我が子のように愛して下さいます。主の愛の深さを感じます。主よ、ありがとうございます。

4月4日(金) 詩編33編16-19節

16王の勝利は兵の数によらず
勇士を救うのも力の強さではない。
17馬は勝利をもたらすものとはならず
兵の数によって救われるのでもない。

18見よ、主は御目を注がれる
主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に。
19彼らの魂を死から救い
飢えから救い、命を得させてくださる。

勝利者は武力の強さを誇るものではありません。そこには破壊された町並みと多くの死者と苦しむ人々があるのみです。主は御目を注がれます。主の慈しみを待ち望む人に。主は不安におびえる心に安らぎを与えて下さいます。主よ、感謝致します。

4月5日(土) イザヤ書63章7-14節

7わたしは心に留める、主の慈しみと主の榮譽を
主がわたしたちに賜ったすべてのことを
主がイスラエルの家に賜った多くの恵み
憐れみと豊かな慈しみを。
8主は言われた
彼らはわたしの民、偽りのない子らである、と。
そして主は彼らの救い主となられた。
9彼らの苦難を常に御自分の苦難とし
御前に仕える御使いによって彼らを救い
愛と憐れみをもって彼らを贖い
昔から常に
彼らを負い、彼らを担ってくださった。
10しかし、彼らは背き、主の聖なる霊を苦しめた。
主はひるがえって敵となり、戦いを挑まれた。

11そのとき、主の民は思い起こした
昔の日々を、モーセを。
どこにおられるのか
その群れを飼う者を海から導き出された方は。
どこにおられるのか
聖なる霊を彼のうちにおかれた方は。
12主は輝く御腕をモーセの右に伴わせ
民の前で海を二つに分け
とこしえの名声を得られた。
13主は彼らを導いて淵の中を通らせられたが
彼らは荒れ野に行く馬のように
つまずくこともなかった。
14谷間に下りて行く家畜のように
主の霊は彼らを憐れみせられた。
このようにあなたは御自分の民を導き
輝く名声を得られた。

わがままな息子は親に逆らい、悪い仲間に加わった。そして人を傷つけてしまった。親は息子を殴った。親の目には涙があった。息子はそれを見て、いつも気にかけて、導こうとする親を思い出した。(例え話です)「わたしは心に留める。主の憐れみと豊かな慈しみを。」主よ、あなたの導きに感謝致します。



2025.3 成人科